

# 稲美町総合教育会議 会議録

(令和4年度第1回)

1 開催日時 令和4年8月24日(水) 開会 13時30分  
閉会 14時47分

2 開催場所 稲美町役場303会議室

## 3 会議に付した事項

### 1. 開会

### 2. あいさつ

### 3. 協議・調整事項

(1) 第3次稲美町教育振興基本計画(稲美町教育大綱)について

(2) 自由討議

### 4. その他

(1) 次回開催予定について

### 5. 閉会

## 4 構 成 員

稲 美 町 長		中 山 哲 郎
稲美町教育委員会 教育長		北 谷 錦 也
稲美町教育委員会 教育長職務代理者		後 藤 哲 夫
稲美町教育委員会 教育委員		北 口 隆 男
稲美町教育委員会 教育委員		本 多 澄 子
稲美町教育委員会 教育委員		高 田 道 夫

## 5 事 務 局

経 営 政 策 部 長	井 上 勝 詞
-------------	---------

経営政策部企画課長	赤松嘉彦
教育政策部長	沼田弘
教育政策部生涯学習担当部長	
兼文化の森課長	山本勝也
教育政策部教育課長	奥陽一
教育政策部学校教育担当課長	野邊久美
教育政策部管理担当課長	井上智久
教育政策部人権教育課長	瀧口泰広
教育政策部生涯学習課長	北口和美

## 6 開 会

司会(井上経営政策部長)

それでは定刻となりましたので、只今から令和4年度第1回稲美町総合教育会議を開催いたします。

私は、本日の進行を務めさせていただきます経営政策部長の井上でございます。

この会議は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第1条の4により、地方公共団体の長が設ける会議でございます。

本年度は、今回ともう一回年度末に開催の予定でございます。会議内容等の詳細につきましては、後ほどご説明いたしますので、よろしくお願い申し上げます。

はじめに、中山町長からごあいさつをお願いいたします。

中山町長

本日は稲美町総合教育会議にご出席いただきましてありがとうございます。私自身初めての出席です。振り返ってみれば私も子育てを一段落したところで、まだ高校生がおりますが、今までずっと学校の教育現場、そして地域、家庭という形で、一生懸命力を合わせて頑張ってきたところではあります。一方で、どうしても子ども達が悩みを抱えたり、困ったりというところがあります。私も就任以来、中学校に行かせていただいたり、小学校に行かせていただいたりする中で、稲美町の子ども達はほんとに元気に、これも地域の皆様の支えがあってできていると嬉しく思っております。本日資料の方の説明、そして自由討議では課題について、どちらかという課題ですでない方が良いテーマが多いわけですが、一つでも二つでもしっかりと解決をして、子ども達の明るい未来に向かって一緒に歩んでいきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

司会(井上経営政策部長)

ありがとうございました。続きまして、北谷教育長、ごあいさつをお願いいたします。

北谷教育長

皆さん、こんにちは。本日はお忙しい中ありがとうございます。教育委員会としては、皆さんのご協力を得ながら、ほんとに子ども達はもちろんですが、町民の皆さん一人ひとりの願いや夢が叶うような教育、学びを進めていきたいということで、稲美町教育振興基本計画を基に推進しています。私は、一人ひとりを大切にするってどういうことかなと考える中で、教育の中では一人ひとりの育ち、成長を大切にする、それをいかにそれぞれの持つ可能性、個性を伸ばしながら、それぞれの夢を実現していくのに、私たちが支援していけるのか、そのことを大切にするってことかなと思っています。そういうことから考えると、コロナ禍というのは、子ども達だけではなく、町民の皆さんにも随分我慢していただいている、ストレスが溜まってしまっているところがあります。今年度になりまして、まだ心配なところがありますが、with コロナに向かって、教育活動やいろんな社会活動を含めて、コロナ対策をしながら進めていくことは、喜ばしいことでもあり、その分私たちがやらなければいけないこと、気をつけなければいけないことも多く、課題となっているのかなと思います。今日この総合教育会議において、皆さんと一緒に、先程中山町長からもありましたように、今ある課題についてまず共有しましょう。どんな方向で解決していくか確認をしましょう。コロナ対策も含めて、すべての子ども達、すべての町民の皆さんの笑顔に繋がる教育の第一歩に今日がなることを願っておりますのでご協力のほどよろしくをお願いいたします。

司会(井上経営政策部長)

ありがとうございます。本日の会議の出席者は、別紙「令和4年度稲美町総合教育会議出席者名簿」のとおりでございます。会議の構成員は、町長と教育委員会委員の皆さまで、事務局は企画課と教育課、人権教育課、生涯学習課、文化の森課が担いますので、よろしくをお願いいたします。

当会議の議長は、稲美町総合教育会議規則第4条の規定により、町長が務めることになっております。また、この会議は、同規則により原則公開で議事録を作成することとなっておりますので、ご了解いただきたいと思います。

それでは、町長の方で会議の進行をお願いいたします。

中山町長

それでは、規則に基づいて議長を務めさせていただきますので、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

本日、会議の傍聴を希望する方はいらっしゃいません。

それでは、令和4年度稲美町総合教育会議次第の3. 協議・調整事項について進めてまいります。

最初に、(1)「第3次稲美町教育振興基本計画(稲美町教育大綱)について」の説明を事務局からお願いします。

瀧口人権教育課長 (資料説明省略)

中山町長

ありがとうございました。何かご意見ご質問はありませんか。

ないようですので、自由討議に移りたいと思います。

自由討議ですが、例年それぞれの委員さんからテーマを出させていただくということと聞いておりますので、最初に私の方から出させていただきます。

夏休みがそろそろ終わってまいります。子ども達は、9月1日からそれぞれの学校へ、夏休みの宿題も終わっている事と思います。ただ気になるのが、学校に行きづらいなと思っているお子さんもいらっしゃると思います。そういった意味で、9月1日元気な顔が見られるのかなというところではあるのですが、もしよろしければ、現状であるとか現場の方で課題が残っていることがあればお聞かせ願いたいと思います。

瀧口人権教育課長

私の方から不登校の関係のお話をさせていただきます。不登校の児童生徒への支援というのは、マニュアルがあるわけではなくて、児童生徒個々に応じた支援が必要となります。現在教育委員会としましては、学校と連携して社会的自立に向けた取り組みを進めており、いわゆるふれあい教室、教育支援センターというものになるのですが、子ども達の情緒の安定とか、基礎学力とか、なかなか起きられないというような、基本的な生活習慣の改善等の相談や指導を行っております。神出学園、やまびこの郷といったような施設もございまして、そこと連携もしつつ、また民間施設とも連携を行っております。ふれあい教室については、年4回ほど保護者会を開催しております。家庭との連携ということで、不登校に関する悩み、保護者同士のつながりとか情報交換等で何か解決の糸口が見つけられるように支援の方を続けております。今年度から稲美北中学校だけでなく、稲美中学校にも校内適応教室を設置しております。2学期から新しくいいスタートがきれるように各学校の方でもいろいろと情報交換をしながら進めていっているところでございます。

中山町長

ありがとうございます。

他にございませんか。

高田教育委員

不登校の児童をどうするかということで、さまざまな取り組みがされています。ただし、それは言うのは簡単です。居場所はちゃんと作ってあげる、それ以外に言いようがないわけです。例えば文字で書かれたインターネット、あるいは行政機関のそういう文書、あるいはそういう施設の状況を書かれたもの、今回ちょっと勉強させていただいたのですが、そうすると、そんなに誰もが認める良い事なのに、それがなぜなかなか難しいのか、それを2、3日ずっと考えていました。それで居場所作りとか不登校ということになると、情報を発信しているのは、民間のフリースクールでした。私の勉強した限りにおいてはです。民間のフリースクールというのは、当然営利目的、福祉でありつつかつ営利目的であるわけですから、出来るだけ美しい言葉で書いてあります。自由、それから夢、希望この3つの言葉が集約され、自由、夢、希望を作ってあげるために、いろんなことをやっているわけです。それが「教育現場では大変だ」、民間のフリースクールが自ら、「いや私どもの方が大変です。」とかそんなことはどこにも書いてないです。ただ、ある一定規模になると皆さん方もご存じのように、いわゆる元社員のロコミというのがあるのです。当然それは良かった事、その会社で悪かった事、あからさまに書いてあるわけです。もう見たくないな、発言をしたくないなということが赤裸々に書いてあるわけです。自分の言葉として消化しないと、そのままの発言ができないと思っていました。継続して言えることは、福祉であるという事と、ビジネスであるという事です。かなりシビアな形で両立させている、それだけでは経営者が厳しい。しかし、高い志を持ったスタッフの方々がいます。民間でシビアな経営者、志の高いスタッフ、その間で美しいハーモニーに協調が出来ている時もあるのです。そういう協調がある会社なり施設を調べますと、ロコミサイトで出るようになっていきます。表面的な事だけ理解しようとしていたわけですが、予想もしなかったことが出てきた、先程も教育長からあったように、一人ひとりに対してきめ細やかな対応をしていくことが大事、まさにその通りなのです。しかし、それを実現しようとしたら、そのスタッフの方が、経営者の方の情勢、あるいは利用者の方、利用者というのは子ども達です。それなりの困難を抱えてそこに来ている子ども達ですから、その中でスタッフ、いわゆる先生との距離感の取り方がなかなか難しいらしいです。好きなら好き、精一杯好きになる、しかし、それはスタッフにとっては、少し距離をおきたい、そういう風な大変さ、給与が安い、国からのそういう補助金が出て、スタッフとしては期待していたが、例えばボーナスで一人当たり3万円ずつの援助が出た、その経営者は、3万円を引いていつもの額だけボーナスを出してくれた。出さないよりはましです。そういう事の積み重ねで、民間のフリースクールはやっていけている。稲美町で例えば、学校でのふれあい教室を設置する、私も先日視察という形で中学校を訪問させていただいて、いい意味での開店休業状態でした。せっかく開設したのだからたくさん利用したら良いけれども、そんなには利用していない。そういう施設があるということ、実際に廊下の前まで行って見させていただいたことは非常に良かったと思います。そこでそういう子どもたちをきちんと預かって細やかな体制を整えるためには、やっぱりスタッフ、簡単に言えばスタッフの増員とかで言えるわけです。

実際に本気でやろうとすると、民間施設で上がってくる声のような大変さというのがその人たちにかかってくる。しかし、当事者でない例えば私教育委員会の教育委員として、何ができるかというのをここでこの場で発言するだけだったら、こうしたらいいですよと言えるわけですが、この調べたことによってそういう安易な言葉は言えなくなってしまった。それで今回くどい言葉を発しているのですが、どうすべきかというやっぱり実際にやるとなると、場所を確保する、人を確保する、細かな工夫、例えばついたてを置くとか、柔らかいソファを置いて、くつろげる環境を作るというのは、まずは当然大事です。それをやったその先に叶わぬところの大変さ、その子どもたちがいろんなことで困難を抱えている、その困難は一人一人ほんとに違ってきます。子ども達だって親の問題であり、かつ本人もそういう心理状態になっている、そしたら不登校になる、そういう困窮とかヤングケアラーとか不登校、そういうのが絡まっている場合もあるかもしれません。やっぱりそれをほぐしてあげて、その子どもたちの気持ちを要は、分かってあげる、そこが言うのは簡単で、実際にやるのはなかなか大変だということを勉強しました。

結論としては、出来るだけ物理的な環境は整えてあげるとして、その先にある困難さをぜひあらかじめ嫌な事でもそれに接すれば、学びというのはあると思いますので、取り組むようにすべきかなという風に思います。

中山町長

ほんとに大変さというのは、本人じゃないとどんな問題でもなかなかわからない、いろいろお調べになられて、まずは知るということをして、委員なりに共感、子ども達も悩んでいますので。

高田教育委員

公的機関は、民間は、民間で頑張ってやっているわけです。そんなにどこにでもあるわけじゃないです。立場によってその大変さ、ちょっとマシな位置にある。ちょっとその子ども達にエネルギーを注いであげられる。

中山町長

今のご意見なのですが、現在もふれあい教室があって中学校の方にもございます。わたしも先日高田委員と一緒に行ったのですが、夏休みということもあって、子ども達は来ていなかったのですが、やっぱり見させていただくと、やっとの思いで来たので、少し横になる所があってもいいのかなという気にはなりました。そういった意味では、せつかくそういった場所ができたのだったら、さらにそこで安心して過ごせるような、設備だったり、人為的なお話になりますと、大変だと思います。現場の先生方は、クラスに生徒たちがいるわけですから、その子ども達と共に在籍をしているクラスには来られていない、けれどもその子ども達もいる、たくさん先生方が待っているかそういった状況じゃないと思います。

そのあたり違う方向でしっかりとした対応ができる方がいらっしゃれば、そういった人たちが関われる人数というのは多い方がいいのかなと思います。とにかくにも、家にいる間は家でしかないと思っています。ただ出たら出たなりの次のテーマ、居場所っていうのは、出来る事であればいくつあっても良い、種類もちろん公共の場でできるもの、これもしっかりあった方が良いと思いますし、先ほど高田委員もおっしゃったフリースクールですが、付加価値は違っても、思いは学校の先生と一緒にであったり、近所のおじちゃんやおばちゃんであっても一緒だと思います。あの子学校へ行ってないな、声をかけてあげようかな、一緒だと思います。知識がないといけないかもしれないですが、出来る事であると思うので、優しい気持ちさえあれば、それぞれできる事、フリースクールでも民間でもできる事をちゃんとやっていただいていますし、しっかりと学びの機会を提供する、安心していただける場所を提供する必要性はあると思っていますので、奪われる、何が原因かわからないけれどもそういう機会を失くしてしまっているわけです。それほど悲しいことはないです。給食も食べてほしいし、出来る事ならみんなで食べる、それが出来ないから出来ないなりの、自由な環境を整えてあげてほしいなと思います。

#### 沼田教育政策部長

いろんな視点からのご意見をいただいたと思います。教育委員会では、ふれあい教室の環境を整えるとともに、中学校での先生の対応で指導員を配置したりという事で、子どもさんの状況によって、支援の仕方というのが多様になってきておりますので、対応出来るようにしていきたいと思っています。

それとフリースクールにつきましては、不登校の方々だけではなく、運営方針、例えばインターナショナルスクールとか、いろんな運営方針に基づき運営されているところがありますので、学校ではなくてフリースクールなどを選ばれる、色々な立場でいろいろな取組みがあると思います。学校と教育委員会は、それぞれの連携をとり支援をしていく、フリースクールとか民間の施設もありますので、いろいろなネットワークを強めていって、教育委員会として取り組めるところは、まずは取り組んでいきたいと思っています。

#### 北谷教育長

人権教育課の瀧口課長から目標というか目指すものは、個々の子ども達の社会的自立である、これをよく言われます。社会的自立とはいったい何か、抽象的過ぎて、これについても、私たちそれぞれ、具体的な子どもを思い浮かべながら、意見交換する必要があると思います。これも抽象的かもしれないですが、私は人が社会的自立をするということは、自分が一人ではないということ、誰かに支えられている、それは家族であったり、仲間であったり、同僚であったり、地域の人であったり、と同時に、誰かを支えているんだ、そういうことが実感できる、それが社会的自立なのかなと思っています。そういう意味では、子ども達にそういう思いを体験をしてほしい、経験をしてほしい、そういう学びをしてほ

しいと思うのですが、その中で子ども達の居場所の問題が出てきました。居場所ってというのは物理的居場所がなければいるところがないわけですが、心の居場所、理解してくれる人、話を聞いてくれる人、そういう人がいるという事がものすごく大切なのです。それを合わせて考えると、高田委員からいただいた、やっぱり共感、町長も言われたように、ほんとに困ってるんだろうな、そこまではわかるのだけれども、ほんとの理解はそこは難しい。困っているんだろうということを感じることができた。共感してあげることが出来た。話を聞かせてということで、寄り添う事が出来るのです。そういう存在が一つではなくて、いろんなところに広がっていくということを感じることによって、人は自分の自己肯定感が始まって、そして支えられているんだな、家族にも地域にも友だちにも同僚にも支えられているんだな、その中で社会的自立が生まれていくのではないかなと思います。それをするためには、人と物理的な場所が必要、今いろいろ高田委員もおっしゃられた通り、課題はあって、すぐにはできないですが、その一步として物理的な場所と人の充実ということは、まずしなければならないことと思います。ただ人を配置したから、場所を用意したから、それで解決する問題ではなくて、そこから子ども達に関わる、教育に関わる者として、この総合教育会議もそうですが、先生方も含めて、それぞれの人の社会的自立って何なのか、それぞれの具体的にイメージする事を交流して、そのことを実践していくことが必要かなと思います。教育委員会としましては、ふれあい教室、適応指導教室だけではなくて、各学校の取組みや支援の充実を目指して動いていますので、さらにこの会議で進んでいってくれたらと思います。

#### 後藤教育委員

今教育長のお話と関連するのですが、私も現場でいろいろ考える中で、子ども達の成長の中で足りないものがあるのだらうと思います。私自身も二回ほど転校をしまして、父親の職場の異動の関係で、昔は家族全員で移っていましたので、まったく新しい状況の中寂しさもあり不安もありました。一つは海辺で育ったのです。遊びながら家の仕事を手伝っていたのです。貝を売って小遣いにする等、自分の有用感というのは生活の中にあつたのです。しかも海の中ですので、友だち同士でみんなでわいわいいつも遊んでいましたし、鍛え合って、「4年生になったら一人でここからここまで泳げなあかんねん」という不文律がありました。後ろから蹴飛ばされまして、泳げるか泳げないかわからない、みんなそれぞれ一生懸命練習して、プールなんかないですから、急にドーンと海の深いところに落とされて、しかしそれを乗り越えるとすごく自信がつくのです。そういう小さいながら家庭の役に立っていた、それから僕はあの恐怖の中を乗り越えたんだという自信、そういうものがあつたので、転校していろいろいじめもありましたが、何のことあるかと、そういう気持ちでおりました。僕は僕の考えでやっていくんだ、こんなんでもへこたれへんぞ、胸張っていくぞという気持ちでいると、悪ガキの一番上の奴とも仲良くなり、関係も作れました。自分に対する自信、みんなと一緒にやっていくことが楽しいんだということが小



学生の中に身につけている、そういう時代があったのです。少々のことであっても大丈夫だということなのです。今の子ども達に自分に対する自信だとか、友だちとわあ〜とやると楽しいんだとか、いろんな学びができる、そのことを実感できる場が、どんどん減っている状況にある、地域と一緒に育てていくコミスク、その一つの視点として、有用感、あなたの力があって良かったわ、助けてくれてありがとう、地域のおじいちゃんおばあちゃんの返しの言葉とかが、トライやる・ウィークとかでもあるだろうし、そういう視点から有用感と社会性を育てるポイントを捉えて逃さないように指導していく、そういったことも大事ではないかなと思います。

中山町長

何かが増えたから何かが減っているんだと思います。自己有用感とかみんなで頑張ったとかいうのは、部活動もその一つだと思うんですが、意図的に作られたものとしては、すごくいいプログラムだと思います。

本多教育委員

中学校部活動の地域への移行について、令和5年度から令和7年度の3年間をかけて実施していくとされています。地域移行に際し、さまざまな課題があると言われていますが、町の現状にあった進め方として、受け皿となるスポーツ団体の選定や地域スポーツの在り方、方向性等について、具体的にどのように進めていくのでしょうか。

北口生涯学習課長

部活動の地域移行に向け、まず教育委員会において、課題を洗い出し、協議を進めていきたいと考えています。

具体的には、令和4年度中に、部活動地域移行に関する様々な課題を協議していく『検討準備委員会』を立ち上げ、スポーツ団体関係者・中学校部活動担当教員・学識経験者・教育委員会事務局職員等で組織し、受け皿となる団体候補の選定を進めていくなど、段階的に事業を進めてまいりたいと考えております。

中山町長

現場では大混乱するのだらうと思います。この夏だって、中学生、全国大会日本一、もちろん全国に行かなくたって、部活動を続けて、試合に向けて頑張ったり、すごくいい取り組みではあるのですが、よくよく皆さんのお話を聞いてみると、それには、ものすごい労力と時間とあって、得られる部分が多いだけ、使う部分も多い。さっきの不登校の話と少し関連するんだと思うのです。現場では全部出来ないのだったら、これはということで、地域の方のスポーツ、それはそれで求められる、子ども達に来てほしい、例えば、高齢化してしまって、お互いにメリットがあるのだったら、それはそれで、子ども達を中学校の

部活動から離して、地域にお願いしますね、地域もよっしゃよっしゃ、地域も若返っていわという気持ちがあって、結果的に上手くいくなったら良いかな。

#### 北口生涯学習課長

まだまだ検討中というか、調査中で始まったばかりなのですが、団体によっては、自分たちが進めているスポーツを子ども達にぜひやってほしい、教えたいという方も個人的にお聞きはしているのですが、様々な課題がありますので、今年度は課題を調査しまして、それぞれの立場の課題を挙げていって、調整して、部活動の地域移行を進めていけたらと思います。

#### 中山町長

僕たちが中学生の時よりも部活動の数が減っている、でも地域にもいろんな種目があって、全然違うスポーツがあって、それが出来るのだったら、地域も大喜びだと思うのです。ただ学校側の部活動があるから捉えていた部分が、それがなくなったら先生方大丈夫ですか。

#### 北谷教育長

私は、部活動の地域移行と捉えているのです。それはどういうことかっていうと、この夏県大会の団体から熱中症の心配で施設の事もあったので、町長も一緒にいろんな競技を応援がてら、子ども達の活動を見ていただきました。東播大会からその後は、さらに上の大会へ行く子ども達へ壮行会もご協力いただいたのですが、見ていただいて、町長もおっしゃっていた、頑張りに感心する感動する。それと同時にこの中で多くの事を学んでくれているんだろうなということを感じるところです。地域移行になっても、同じその良さは残してほしい。さらに学校だけじゃなくて地域の協力も得て、いろんな人の協力を得るのだからさらに、残すというよりか広がってほしいという思いが事務局としてはあります。

そもそも部活動の地域移行の話が出る最初のきっかけが、教職員の働き方改革、働き方改革の本質は何だったかという、それも子ども達の教育を充実させたい、そのために先生方が疲れてしまっていたらあかんやろう、というのが始まりだと思うのです。そのために、いけない仕事は学校から出ていってということになって、いつの間にかそれがすり替わってしまって、先生方の勤務を軽減するというそこだけに、注目されてしまっています。部活動もちろん学校の教育、可能な範囲で、先生方の負担にならない範囲で、学校の協力も得ながら、そこに地域の持っているパワー、隠れた指導者がたくさんいる。そういう人たちをうまく結びつけられるような稲美町型の地域移行が出来たらと思っています。

いろんな競技もあるのですが、あくまでも部活動の地域移行ですので、子ども達が体験して、普段やっていることとは違う、それはまた別物、そういうことも必要ですが、まずは今ある部活動で充実。その上で今の部活動もあるし、そんな中で広がっていったらと思

います。地域の人と触れ合うことで自然とそれも広がっていくと思っています。

#### 北口教育委員

教育長がおっしゃったように、稲美町型の地域移行というものが出来てくれば、素晴らしいことだと思いますし、ぜひ結果的にはそうなっていくのだろうと期待はするのですが、現役時代に教育委員会の立場、学校の立場から地域へいろんな事業をおろすときによく言われたのは、「何でもかんでも自治会に持ってきて。」と、ある自治会長さんにこっぴどく言われたのが2回や3回どころかよくありました。学校は、地域へ持って行ったら、なんでも話が出来てしまう、地域はうんざりしてしまう。ところが、兵庫県がすすめたきょうだいづくり運動、地域でやる子育てだったのですが、それを学校の教頭が事務局になってしると、協働して一緒に物事をやるというのは、なかなか上手くいかなかったという部分があります。ところが、いま進めているコミスクというような運動は、やっぱり学校だけではいけない部分がある。あるいは地域だけではとてもじゃないけど出来ない部分がある。だから一緒にやりましょう、という趣旨の中で、同じ方向に向かって活動が始まってきつつある段階であると思います。地域の皆さんの大変な労力とまたアイデアをいただいて、それぞれの5つの小学校、2つの中学校区で素晴らしい活動がなされているのは事実であり、この部活動もやっぱり人だと思っています。その道の専門家なり、あるいは技術に長けている方がいらっしゃればこそと思いますが、プロ野球の立派な選手が良い監督になるかということではない、ということからすれば、この度の仙台育英の監督だって、現役の時は選手として出てはいない。ずっと2番手3番手、あるいはベンチを温める立場の人だったと思うのですが、あれだけの子ども達を全国制覇まで導いた。だから自分ができるから見たらということにはならない。やっぱり子どもを見るというのは相当な責任がかかってくるということです。

明石市で昭和50年前後、コミュニティ構想というのがありまして、それぞれ中学校の体育館等を利用して、地域のスポーツ活動をどんどんやっということうことで、スポーツ指導員というのが配置されて、それに伴って、野球部とかサッカー部とか地域でやられる指導者がおられるところは、そこへ任せていった。何年か続いたのですが、結果的には、それも長続きしなかった。いろんな問題があったのでしょうか。なかなか子どもを預かってするというのは、難しいことだと思うので、そう簡単にはいかないと思います。部活動というのは学校の一つの教育機能だと思います。だから、普段の学校生活で悩みを持っている子ども達が部活動で救われるとか、あるいは、逆にその悩みを持っている子どもに、担任の先生あるいは学校の先生が関わって、個人的に温かい指導をして下さっているという現実もあります。また、生徒が中体連の大会とか近畿、全国へと出ていった時といえば、学校の名前がどんどん出ますので、学校そのものが活性化されて、それによって地域の皆さんも新聞に連日自分の校区の学校の名前が出たら、そりゃあ嬉しいに決まっている。そういう風な活性化という部分も、やっぱり機能として持っているわけです。学校の先生だ

って、土日やったんでという先生もいらっしゃる、という風なことになってきたら、地域の指導者とどう折り合いをつけて、折り合いというよりもむしろタッグを組んで子ども達を育てていく、より強い味方が出来たという体制が出来たら、それが一番なのでしょう。そこら辺の体制をどう考えるのか、特に専門になればなるほど、指導者の思いというのは必ずしも一致しない部分があって、難しいところがあるかなと思います。あるいは、事故が起きた時に、学校の教育活動ではなかったのか、保障はどうなるの、という風なことになってくると、大変な問題もふりかかってくる。だから今でもそうだと思うのですが、学校の運動場にあるサッカーゴールが倒れてケガをした、あるいは、そのサッカーゴールもサビて使えないようになったら、学校が直すのか、地域のスポーツクラブ21が直すのか、という風なことが出てくると、そこら辺のすみ分けがなかなか難しくなってくる。そういう風なことを考えていくと、令和5年から3年の間に、3年をめどにということになるが、必ずしも無理してこの間に収めるのではなくて、稲美町独自の地域移行へ持って行くのですが、少し余裕をもって、地域の同意を得ながら、学校の先生方の同意を得ながら、一緒に考えていくことが出来ればいいのではと思います。

何よりも子どもが「あの先生に指導してもらえるの。」「あんな素晴らしい先生に合唱を教えられるの。」というようなものがなかったら、教育的な配慮というのも大事なかなと思います。

#### 高田教育委員

さっきのお話で私もとても共感したところがありまして、学校の先生でも、学校のクラブ活動が大変だということで今の流れがあるのですが、ほんとにクラブ活動、生徒に教えるのが好きだという先生も当然いらっしゃる。私の経験上、中学高校と入ったクラブ運動系でしたら陸上部だったのです。文化系でしたら美術クラブにも入っていました。高校でしたら地学部でこの3つのクラブの先生は、自分が好きで知識もあって生徒と一緒にクラブ活動をやっていきたい、そういう先生方に幸い私は会えて良かったと思います。今の流れの中で、やっぱり一律にするのではなくて、先生もやりたくて力があって、そういう先生はクラブ活動を続けられて、地域の人も入って来られて、タッグを組むといった、そういうことになったらいいなと思います。

#### 後藤教育委員

大変なことだろうと思うのです。これから課題をいろいろ整理して、進めていく中で、このような流れになるんだという説明を聞いてどう思うか、一度生徒の代表に直接聞いていただいて、それを参考にしてやってほしいと思います。

地域の指導者から、保護者がたくさん試合を見に来て、自分の子どもに試合に出てほしい、という要望がたくさん来て、どの選手を起用するか非常に困ったという話があったそうです。そういうことで保護者が出てきたら大変だなという思いがありました。学校です

と顧問の先生が決められたということで子どもも納得し、それが親にも伝わっていくわけですが、一般の人で地域のコーチが主体になっていくといろんな要素が絡んできて、上手くいきにくいということがあるんだろうと思います。実際にこう進めていく中でもこういう問題が起きてくるということです。

#### 北口教育委員

ただやっぱり今出ているような問題が、ほんとに難しい問題として発展してきて、長続きがなかなか出来なかったということだと思います。地域の皆さんだって、そんなに時間があるわけじゃない。やっぱり土曜、日曜になったら、我が息子、娘と海へ行って遊びたい、公園へ行って遊ばせてあげたい、ということも一方においてはあるわけです。

#### 北谷教育長

貴重な皆さんの意見を聞かせてもらって、これからの検討の非常に参考になると思うのと、部活動の意義というのをしっかり認識していただいている事、理解していただいている事、非常に嬉しく思います。ただ今まで、それは学校しかできない、教職員しかできないと思われていましたが、そんなことはないと思うのです。地域の皆さんにも協力していただいで進める。ただ、失敗例を見ると、そのつなぐコーディネーターの人がいなかったということで、検討委員会と共に、学校と地域の活動をつないでスムーズに、子ども達が安心して地域でも学校でも活動できる、そういうコーディネーターの人が必要かなと思います。

#### 中山町長

不登校も一緒かなと思います。任せられるところに任せるというのも、一つ大事なことだと思います。大変なお仕事ですが、ほんとに良い事をやろうとしているので、出来そうなところから、もし時間的な事も余裕もあるのであれば、丁寧に進めていって、一つひとつ上手くいきそうなところを順番にしていったらと思います。

もっとたくさんテーマを出したいという気持ちもあったのですが、お時間の方が来ているようです。また次回ということでもよろしいでしょうか。

ほんとに貴重なご意見をいただきました。私も今日参加させていただいて、良かったなと思っているところでございます。ありがとうございました。

それでは、次第の方に戻りまして、4.その他に移ります。次回開催予定について、事務局の方からお願いいたします。

#### 司会(井上経営政策部長)

次回の開催につきまして、この会議については、基本的に年1回の開催としておりましたが、今回につきましては、6月から新しく町長が就任したために、稲美町教育大綱の内

容でありますとか、現状の意見交換をすることを目的に開催をさせていただきました。なお、次回の開催期日については、来年の2月を考えております。正式に日程等が決まりましたら、町長、教育委員の皆さま方にお知らせすることにしたと考えています。

また重大事件等、発生した場合には、随時開催することとしておりますので、その際にはご協力をお願いしたいと思います。よろしく申し上げます。

中山町長

次回の会議の開催についての説明がありました。

これについて、ご意見があればお願いします。

ご意見がないようですので、次回の総合教育会議は、来年の2月に開催いたします。詳細な日程は、事務局の方で調整してください。

その他、委員の皆様方や事務局を含めて何かありましたらお願いします。

本日は皆様から貴重なご意見をいただきました。一番は子ども達の健やかな成長でございます。それはもう皆さんが教育機関も地域も家庭もわれわれ行政も、願っている事でございますので、今後ともご協力をお願いいたします。

本日はどうもありがとうございました。お疲れさまでした。